



### ■内なる芽生え—1学期始業式にて—

今日から1学期、令和6年度が始まります。皆さん“踊り場”での修正はできましたか？昨年度の3学期終業式では「この春休みを“階段の踊り場”にとらえ、あの時のこと、その時のことを自分なりに振り返り、一つ上のステージを目指すための修正期間と考えてください。「踊り場」は英語では「landing」

(着陸)と表現します。皆さんそれぞれが設定した

目標地点に landing = 着陸できるよう、自分自身に『向き合い』ながら充実した春休みを過ごしてください。」という話をしました。そして「新年度の始業式で、やる気に満ち溢れた皆さんの眼差しに出会えることを楽しみにしています。」と伝えました。

新学期を迎えた今、皆さんの“やる気スイッチ”はオンになっていますか？

春のこの時期は、落葉していた木々の枝にも徐々に新芽が見られるようになってきます。私の自宅にも地植えや鉢植えの落葉樹があります。秋に落葉し寒い冬の時期は枝だけの姿になり、中には本当に枯れてしまったように見えるものもあります。3月終わりに、もう枯れてしまったと思い処分するために庭の片隅に置いていた鉢植えの木の枝から緑の芽が出ているのを見つけました。それを見つけた瞬間は、小躍りするような嬉しさの感情を抱くとともに、枯れてしまったと早合点していたことを詫言いました。慌ててほかの鉢植えも確認してみました。ありました。細い枝に小さな緑色の部分がありました。水も与えていなかった球根からも小さな芽が顔をのぞかせていました。見ようとしなければ、探そうとしなければ見えないほど小さな芽でした。もう枯れてしまったと思っていたら決して出会うことはありませんでした。

これを、自分自身にあてはめて考えてみてください。皆さん、何か思い当たるところはありませんか？自分自身のことは、なかなか見えにくいものです。見ようとしなければ、探そうとしなければいつまでたっても見えてくることはありません。人は日々、たくさんの刺激を受けながら過ごしています。昨日より今日、今日より明日と知らないうちに知識や経験を蓄積して成長しています。皆さんが意識しない間に、自分自身の中に新しい芽が顔をのぞかせてはいませんか？自分を客観的に見るための、もう一人の自分になって小さな新しい芽を探してみませんか？その小さな芽に出会えたら、大事に大事に育てていきましょう。一人ひとりに内在する芽は、ほかの人と比べるものではありません。自分なりの方法で、少しずつ大きく育てていきましょう。『その先に』、あなた自身のパーソナリティーが形づくられていくはずですよ。そして、自分なりの方法で、自己表現していきましょう。急がなくてもいいですよ。じっくりゆっくりと『向き合って』いきましょう。



今年度の合言葉は昨年度から継続して『**向き合う。その先に…**』です。ただ、今年度は副題として英文も添えました。『**Face it. Beyond that…**』です「Beyond」には、「～を超えて、～以上に」といった意味があります。今の自分を少し超えて、今以上の自分をめざして、今一度自分自身に『**向き合って**』みませんか？

ドイツの哲学者ニーチェは、その著書『人間的な、あまりに人間的な』の中でこう述べています。「高い自己に、ふと出会う日がある。いつもの自分ではなく、もっと澄みきった高級な自分自身が今ここにいるのだということに、恩寵のように気づく瞬間がある。その瞬間を、大切にするように。」と。

開校 100 周年を迎える今年度、皆さんにとっても学校にとってもよいスタートが切れることを願っています。